

解説

ときわごぜんゆき だん

『常盤御前雪の段』 ～『源氏烏帽子折』二段目～

平家方の総大将平清盛は、源氏方で生き残っている者や、常盤親子を召し捕るように厳しい命令を出します。常盤御前は、今若、乙若、牛若の幼い子ども三人を連れて、雪の中を京都から伏見に落ちのびる途中、道に迷い近くの家に一夜の宿をこいました。

ところが、そこは平家方の武将宗清の館でした。奥方には、源氏方「盛長」の妹「白妙」がもりながかくれ妻になっているのです。白妙は、平家方の「宗清」を気づかい、常盤親子に早く逃げるように言いますが、雪の降りしきる寒い夜のため、常盤は倒れてしまいます。子どもたちが介抱してようやく顔を上げたときに、運悪く宗清が帰ってきます。

宗清は常盤親子に気づいて、白妙に「常盤親子を追い払え」と言いますが、白妙が納得しないので、宗清は弓矢を空へ放ちます。常盤親子はそれに驚いて寒い雪の中を逃げて行くのです。しばらくして、白妙の兄盛長が「妹の白妙を殺して宗清と勝負をしよう」とやって来ますが、宗清が常盤親子を逃がしてやったことを知り、深々とお礼をのべて、東の方へ落ちのびて行くという人情豊かな物語です。